

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属中学校 教頭
氏 名 保 坂 修
 研究期間 令和元年度

研究プロジェクトの名称	探求更新
研究プロジェクトの概要	<p>附属中学校の研究の歴史は「探求」の歴史でもある。</p> <p>子供たちの探求する姿を更に高めるため、次の2点を柱として取り組む計画を立てた。</p> <p>一つは、東京大学の学生が最先端の研究を一般市民に説明する場面を参考にし、探求の方法やモデルを学ぶ機会を設定する。れにより、子供たちは、テーマ設定、情報収集の方法、効果的な発表など、探求のノウハウを学ぶことで、よりダイナミックで論理的な探求をする力を身につけることができる。</p> <p>二つは、当附属中学校は台湾国立嘉義大学や台湾国立師範大学附属学校との交流を始めようとしている。この機会を子供たちの意見交換や発表の場面として設定したい。これにより、多様性の意義を認識するだけでなく、個の考えをより深めることができる。さらに、学習プログラムを構築し、修学旅行に発展させることも視野に入れている。</p> <p>これらの成果は、研究会や上越市・新潟県の研修会等で子供の姿として発信する。</p>
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>上記プロジェクトの一つ目である東京大学の学生の研究に触れる活動では、11月23日の駒場祭における企画「10分で伝えます！東大研究最前線」で5つの研究発表を録画した。さらに、企画の実行委員から実費で過去の発表が入った映像を購入した。この映像を活用し、3月に1年生の理科及び、総合的な学習の時間で研究の進め方やまとめ、発表の仕方等を学ぶ機会を設定したが、コロナウイルス感染拡大予防のための休校措置で実施できていない。</p> <p>プロジェクト2つ目の台湾との学校交流は、上述同様、コロナウイルス感染予防のため、渡航を自粛したため実践できなかった。</p>
研究成果の発表状況	なし
学校現場や授業への研究成果の還元について	なし

【提出期限】 令和2年3月31日（火）：厳守